

中山国際法律事務所

笑顔あふれるインテグリティで コンプラを変え、会社を変え、日本を変える！

まだコンプライアンスですか？ ——「インテグリティの伝道師」として

自社のコンプライアンスに満足している企業はありません。中山国際法律事務所では、コンプライアンスを発展させた「インテグリティ」をサービスの1つの柱にしています。

インテグリティとは、コンプライアンスをアンラーン (Unlearn) して、VUCAの時代に即応すべく明るく発展させたものです。「良心」や「お天道様」がインテグリティのイメージです。従来のコンプライアンスに、リーダーシップ的な要素を加えたものです。「コンプラ疲れ」にあえぐ日本企業の多くが、欧米では常識のインテグリティの採用を始

めています。

なぜインテグリティ？

なぜコンプライアンスではなくインテグリティなのでしょう。

1.コンプライアンスの病理

SDGsの流れで「ソフトローのハードロー化」が起り、日本企業の疾病の一つ「コンプラ過多」が加速しています。大手企業の相次ぐ不祥事は「コンプラの病理」を明るみに出しています。「手段」であるべきコンプライアンスが「目的」化する「ブルシット・コンプライアンス」が企業を蝕んでい



ます。

コンプラ過多がもたらす「言ったもん負け」「貧乏くじの引かせ合い」の「他責」文化が企業風土を蝕んでいます。コンプライアンスは他責の文脈ばかりで使われます。メガバンクの不祥事でも「自分の持ち場を守る」消極的な企業風土が批判されました。

2.コンプライアンスはDo things right

右肩上がりの時代は「言われたことをやる (Do things right)」で足りました。しかし、VUCA時代の今、「守る」「従う」という消極的姿勢は、事案にそぐわない本末転倒な結果をもたらします。「気温が30℃以上ではプールに入れない」方針の小学校で、校庭でリレーをさせて生徒を熱中症にさせたという笑えない話もあります。法やルールは常識や時代を後追います。VUCAの時代に「ルールを守る」「言われたことをやる」受け身の姿勢では、時代に取り残されるのです。

3.インテグリティはDo the right thing

そのため、受け身的に「ちゃんとやる (Do things right)」コンプライアンスではなく、積極的に「正しいことをする (Do the right thing)」インテグリティを企業文化にしなければなりません。インテグリティは、チーム感を高め、全体最適の視点から「自分のアタマで」捉えます。右に倣えて思考停止しがちなコンプライアンスの弊害を打破するのがインテグリティです。知識 (コンプライアンス) ではなく意識 (インテグリティ) という対比もできます。Don't think, Feel! というブルー

ス・リーの名言は、コンプライアンス (考える) とは違うインテグリティ (感じる) をうまく表現しています。

多くの企業に、企業理念実現のためのインテグリティ導入をカスタマイズするのが、中山国際法律事務所の得意分野であり、使命です。

インテグリティは「VUCA時代の羅針盤」

インテグリティは、VUCAの時代にマッチしています。

1.企業理念との一体化

企業の方々と会食をすると、50代の部長が85%話し、40代の課長が13%話し、30代の主任はお酒を注ぐばかりで2%も話せない…という場面に遭遇します。この閉塞感ではVUCA時代に世界と戦えません。この停滞感に風穴を開けて企業文化を明るくするのがインテグリティです。

コンプライアンスは企業理念となじみにくいですが、インテグリティは企業理念そのものです。インテグリティの原義は「完全・一体化」です。企業理念との一体化がインテグリティです。コンプライアンスを強調すればするほどエンゲージメントは下がりますが、インテグリティを通じ企業理念を標榜すればエンゲージメントも上がります。

2.組織のパフォーマンス向上

インテグリティとマナーは近いので、インテグリティ導入によりマナーも向上し、これは生産性



向上に直結します。つまり、インテグリティを導入することで、不正防止に役立つのみならず、企業理念との一体化も生まれ、組織のパフォーマンスも上がるのです。組織にインテグリティが浸透すれば、会社は必ず変わります。会社が変われば、日本も変わります。コンプラを変え、会社を変え、日本を変える。その意気込みで日々インテグリティの普及活動をしています。

ワークショップでインテグリティの「伝道」

インテグリティを企業文化にする方法としては、没入感・臨場感のあるワークショップが最適です。コンプライアンス研修では笑顔になりませんが、インテグリティ・ワークショップをすると会場に笑顔があふれます。その笑顔のために、代表弁護士中山達樹が「インテグリティ・エヴァンジェリスト(伝道師)」として笑顔で東奔西走しています。落語を愛する中山弁護士の話術は「YouTuberになっても絶対稼げるすごい喋り」と評価されています。

インテグリティ研修を受講した企業様からは、「目から鱗です」「コンプライアンス部からインテグリティ部に部署名を変更したい」「インテグリティがあればコンプライアンスは不要ですね」「日本全体にインテグリティが広がればいい」などの感想をいただいています。

アジア法務のパイオニア

中山国際法律事務所のもう一つの柱は、海外法務です。全世界1500人の弁護士が加入する環太平洋法曹協会(IPBA)の要職を務める中山達樹弁護士が、海外法務を牽引しています。全世界に広くネットワークを有する中山弁護士が、世界中を飛び回って培った「現場感覚」を重視しています。「実務的」な助言を心がけ、空理空論からの優等生的な助言は絶対にしません。アジア案件が多いですが、米国欧州案件も扱います。海外ネットワークは拡大を続けており、「海外法務のどこでもドア」を目指しています。

英語講師の経歴を持ち、AI翻訳会社の翻訳顧問を務め、『英語交渉術(仮題)』を執筆中の中山弁



護士は、英語での交渉に絶対の自信を持っています。

情熱的なリーガル・ボディガード

8年前の創立時から、中山国際法律事務所の理念はMission, Passion, Integrityです。特にPassion(情熱)を大事にしています。弁護士の智慧やスピードは情熱から生まれます。情熱は依頼者への共感から生まれます。Cool headであることはもちろん、依頼者と喜怒哀楽を共にするWarm heartを堅持しています。共感しすぎるあまり、中山弁護士は依頼者を守るべく防弾チョッキを着て海外へ赴いたこともあります。同弁護士は極真空手の有段者・指導員であり、ファイティングスピリットは誰にも負けません。

説得力はリスクを取ることから生まれます。依頼者への助言でも敢然とリスクを取ります。例えば、「訴訟の勝率は20-40%」「当局に問題視される確率は5%」など、リスク提示は大胆に「数字」で行います。

訴訟も強みにしており、年間500冊を読む中山弁護士の説得的な文章と、寸鉄人を刺す強力な反対尋問には定評があります。

Be the change!

中山国際法律事務所はロゴでBe the changeを謳っています。「世界を変える前に、自分を変えよ」という意味です。依頼者に「リスクを取って、不正に対し声を上げましょう!」と偉そうに語るだけで、リスクを取らない弁護士にはなりません。中山弁護士は普段は白スーツを着ています。あえて人と異なる服装をすることで、同質性・同調圧力に抗い、日本をより自由で明るい社会にするという使命感に燃えているからです。忖度と遠慮ばかりの世の中を変える——そのためのファーストペンギンとして、進んで囓り者になる覚悟を示しています。

Smile, smile, smile!

依頼者を幸せにするためには、まずは法律事務所のスタッフが幸せでなければいけません。幸せは自分から周りに徐々に伝播するという「シャパンタワーの法則」に従い、まずは自分たちが笑顔でいたい。ですから中山国際法律事務所の credo は Smile, smile, smile! です。モットーは「世界最高の環境で、世界最高の仕事をする」。世界最高であるために、物心両面で「世界最高」の環境を



スタッフに与えています。例えば、海外の国際会議に秘書さんも事務所負担で参加できます。こんなに手厚い福利厚生は世界で他に例を見ません。福利厚生で事務所近くのジムに通って汗を流し、心身ともにリフレッシュして執務しています。毎朝3時に起床して3キロ走った後に1時間ジムで汗を流し、「逆立ち腕立て」を得意とする中山弁護士の体脂肪率は、5%です。

明るいインテグリティで会社を変えたい企業様に、笑顔でお力になります。



中山国際法律事務所

弁護士数: 4名(うち、外国弁護士1名、2022年12月末現在)
代表弁護士: 中山達樹(第一東京弁護士会)
〒107-0052
東京都港区赤坂2-2-21 永田町法曹ビル701
TEL: 03-5797-7723

事務所ホームページ
<http://www.nkylaw.jp/>

代表弁護士毎日更新ブログ
<https://blog.goo.ne.jp/05tatsu>



日本で初めてアジア進出した三宅・山崎法律事務所(当時)でキャリアを積んだ代表弁護士中山達樹は、IPBA(環太平洋法曹協会)創設者三宅能生弁護士から、国際ビジネスの真髄を間近で学びました。その後、シンガポール名門Drew & Napier法律事務所執務してさらに国際ネットワークを広げ、「海外法務のどこでもドア」を標榜しています。企業法務、訴訟を中心にタフな案件を得意とします。近年は、コンプライアンスを発展させた「インテグリティ」の普及に使命感を持って臨んでいます。

■主催する研究会

中山国際法律事務所が主催する無料のフォーラムです。企業様同士が、関連に意見交換し、理論ではなく実務の「暗黙知」を共有する唯一無二のプラットフォームです。

インテグリティ研究会



グローバル・ガバナンス・コンプライアンス研究会



お問い合わせ先

Mail: info@nkylaw.jp

